



いながき

# 9月議会活動報告

## 決算 見えてわかるが違和感も

### ～市政運営と予算の執行～



いとう

大きく時代が動いています。中央政府の担い手も変わりました。▽総合的子育て支援▽健康長寿社会▽100年安心プラン。▽地域防災の強化等々。次々に打ち出される国や県の制度変更。補助金などの新基準。分権化の中で業務量も増大。吉川市の役割りは一段と重要性を増しています。福祉、教育、防災を中心に稲垣・伊藤で30項目をこえる本会議質問。一部違和感や留意事項を指摘した上、総体として一歩前進とみて決算認定に同意しました。(いとう)

#### <一般会計は-12.5%。特別会計含め+7%前後> 吉川市の25年度の決算は歳入が321億

11百万円余(一般会計が192億18百万円余。特別会計128億97百万円余)。歳出が306億51百万円余(185億87百万円余。と120億63百万円余)。24年度と比べ一般会計は歳出入とも12.5%前後の減。これは美南小学校や新駅建設の完了に伴うもの。この結果土木費は-43.1%教育費-39.7%に。この一方消防費は+10.58%、民生費は+3.6%に。監査委員の決算審査意見書に目を通し、決算書と合わせて提出された584ページの分厚い成果表も総点検しました。

#### <財政の健全度は一歩改善へ> 市税は人口増を受けて増収基調。収納はきびしい環境の中で

僅かながら徴収率向上。財政力指数は「0.84」で下げ止まりの傾向。市借入金＝公債負担率は市民交流センターおあしすの償還終了などで24年度比-10%に。25年度の借入金残高は149億8千万円ですがこのうち80億円は国の財政難で地方交付税にかわってとりあえず市が借金している臨時財政対策債。この分を差し引いた市がコントロールできる借金は69億円に(美南小、新駅、道路、小中耐震大規模改修など)。これは10年前に比べ30%以上の減です。新庁舎建設基金等への積み増しもあり、新事業へ向け一定の余力を残した財政状況になっています。

#### <主な246事業の実状と成果を公表> 地方自治法は決算認定に際し主要施策の成果表の議

会提出を義務付けています。吉川市は今回541の全事業のうち新規事業や拡充の事業など246事業を網羅した成果表を提出。各事業について経費、投入資源。達成度、効率性。目標、改善点、課題を担当者が記入。年間の主な取り組みの欄も設け、相当見やすく分かり易くなってきました。冒頭にまちづくり、子育て等柱立てをして総括的報告があればもっとよくなると、期待をこめて注文しました。

#### <産婦人科クリニック問題は稚拙と指摘> 私どもは一貫して「見える、わかる、納得できる」

展開を求めています。納得できない取り組み。違和感や留意点について以下の3点を指摘しました。①産婦人科クリニック窓口支払いの問題。この取り組みは子育ての人々にとまどいや負担を強いる結果を招いている。事前に想定されたのに事態収拾への知恵や汗はわずか。残念で稚拙な取り組みと改めて指摘。②沼辺公園の草取り、グランドゴルフの人々のささやかなお願い。公民館での飲食の件など利用者の立場で快適な管理運営を。③フロリデーションは先走って取り組むことなのかと繰り返しの疑問符。見直しを求めました。

いながき-いとうの

## 9月議会報告

場所 おあしすミーティングルーム  
日時 10月11日(土)  
時間 午前11時～午後1時

どなたでも

いながき 茂行 栄町782番地1C-1101 TEL 983-1628

Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com

いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&amp;FAX 983-1117

Eメール itoh.m-y.runesansu@nifty.com:

\*市民改革クラブのホームページは いながき茂行のサイトと  
統合しました <http://www.inagaki-s.com>

# 「新庁舎建設計画」は凍結・延期もいながき茂行

この2年余りで建設費は、当初の30億円から52億に膨らんでいます。市長は、『今後の資材価格、労務単価の動向など、不確定要素はあるが現時点では、新庁舎が49億5千4百万円、付属棟、外構工事を含め1億3千4百万円など計52億4千万円と、算出している』と先の6月議会で答弁しました。

同時に『建設費の削減に努め、市民サービスに影響を及ぼさないことを前提に進めていきたい。今後、資材・労務単価が高騰し続ける状況であればスケジュールの変更も含め見直しも必要』との考えを示しました。

3か月が経過しました。現在の状況認識と今後の進め方について市長の考えを聞くとともに、現計画をやみくもに進めるべきではないとの立場で、質問・提案をしました。

## コスト削減の見直しは？

現在進めている実施設計で、プロムナード、付属棟の書庫、屋上緑化、外装の全面ガラスの縮小を再検討。また、工期の短縮に繋がる工法や部材についても今後100項目の見直し検討を行い、コスト削減に努める。としています。なお、おおよその削減額は2〜3億の見直し。

詳細な積算を行い、全体の建設費が見えてくるのは来年の2月頃。市長は、その時点で建設の最終判断をする予定。

## 立ち止まって再検討すべき

市は資金計画について、庁舎建設基金20億、地方債(借金)32億円とすると、市の実質公債比率は、1.5ポイントアップするが今後の事業を考へても10%程度であり、財政の健全性は保てる。

また、もし『凍結』となると現庁舎をそのまま放置する訳にはいかない。来庁する市民や働く職員の安全確保のため、それなりの対応が必要、と主張。

しかし、7割もアップした新庁

舎の建設費。簡単に借金を増やすだけの対応では困ります。

市が抱えるプロジェクトは美南駅の周辺開発60ha、第4中学校や給食センター建設等。

少子・高齢化対策をはじめ、防災や公共施設の長寿命化等、課題はいっぱい。

将来の財政計画や市民生活にかかわる事業への影響を検証しなければなりません。

## 市民への説明、理解と納得を！

建設費の高騰は高止まりで横ばい、下がる見直しはない。入札の中止・不調は続き、来年10月には消費税のアップも。難しい判断を迫られています。

『機能的でコンパクトな庁舎』を最小の費用で建てるための知恵と工夫がさらに求められます。

早急に、●建設費の総額 ●スケジュール ●規模・内容(機能・役割)について再度、市民の声を聴き、現計画の大胆な見直し検討が必要です。



9月議会は9月2日〜24日まで23日間開催。  
25議案を審議し、全議案を可決。  
内容は、条例等の改正8件、人事案件1件、25年度一般会計・特別会計歳入歳出決算の認定7件及び26年度補正予算7件、その他2件。

議案審議 2日議案上程、4・5日に決算及び補正予算の他、条例等を審議。

市条例の一部改正は、税条例、建築物の制限に関する条例等。  
新たな条例は、子ども子育て支援法関連(市が定める時間、特定教育・保育事業及び家庭保育事業の施設及び運営に関する基準を定める条例等)について。

指定管理者の指定は、市民交流センターおあしす、市立図書館、視聴覚ライブラリーの管理について。  
現在運営委託をしている(株)オーエンス、(株)図書館流通センター、アイル・コーポレーション(株)と再契約。年間2億1千4百万円で、指定期間は平成27年4月〜32年3月末日まで。

委員会審査 9日〜12日  
総務水道委員会(伊藤)、建設生活委員会(稲垣)が、決算及び補正予算、条例担当分に関連した内容を詳細に質疑。

### 一般質問

新庁舎建設計画、これまでの市政運営に対する評価について(稲垣) 4年間の総括と今後の取り組み、ビッグプロジェクト(新庁舎・周辺開発・防災・子育て、高齢者対策等)の方向付け (伊藤)

## 第4中学校の建設 全体を見渡して

いとう 正勝

市長は9月議会会で5期目をめざすと表明。アメリカ大統領は任期8年。その2倍の16年を つとめてさらに。浮つかず残りの任期に全力投球をと求めた上まず第4中学校建設問題を 取り上げた。吉川の児童と生徒の総数はピーク時(昭和58)62年)より25%以上少ない。今年5月1日現在小学校4367人(5807人)中学校は2129人(3053人)。美南地区では急増するが、栄小は23年の1200人をピークに減少傾向で30年には700人台の見通し。旭小や三輪野江小、北谷小も関小も減少と推定される。その時の3中学校はどういう状態なのか。通学区の見直しはどう考えるのか。全体を見る、総合的見地が必要だ。

市長は美南地区は毎年100人単位で児童が急増。駅前

には大型マンションも立地。今の南中学校で受け入れることは無理ではと感じている。財政状況、通学区、教育環境など全体を見て慎重に決断したい。

教育長は生徒数はピーク時より少ないが、当時は45人学級。今は40人学級。パソコンルーム。少人数教室。特別支援学級も増え南中は今年プレハブ教室を建てている。東中は30年頃400人台の下の方まで減るが、全国的に見れば中規模校だと答弁。

この問題は今後継続して議会で集中的に取り上げます。

### 特別養護の老人施設 120床で28年オープンへ

待機児童は新保育所の開設でほぼ解消に向かう見通しですが、施設への「待機老人」は年ごとに増加。(136人・4月1日現在)こうした中、大型の特養施設が進出へ。担当部長の説明では所沢の社会福祉法人が中新田地区に立地。県の許可も。鉄筋4階建。ユニット

型の個室120床。28年中の開所予定。現在上内川に建設中の特養は29床で入居は市内在住に限られますが新しい施設は広域型で誰でも入所資格があるとのこと。

### 防災をより実践的に 地区ごとに計画を

「自らのまちは自らで守る」国は木造の多い地区、道路の狭い地区、地盤の低い地区。高齢者の多い地区など、それぞれ地域に即したへ防災地区計画の必要と推進の方針を打ち出しています。これについて吉川市の取り組みを質問。

これに対し市長や担当の部長は26年度中に吉川市防災計画を見直す地区防災計画の推進もその中に盛り込むとの考えを示しました。消防団員については各地区で防災の核として活動できるように期待し支援していききたい、との意向を示しました。



## 御嶽山

御嶽山が噴火。47人死亡。68人が重軽傷。なお不明者(10/2)。  
警察、消防、自衛隊。生中継の迫力。再噴火。2次災害のリスク。捜索のきびしさ。関係者のつらさ。様々な人生…

松本の放送局が初任地。山岳担当の記者として北アルプス。南アルプス、中央の連峰も仕事で踏破。雪山遭難取材では左手首に凍傷も。最後は西穂高の落雷事故。縦走中の松本深志高校の生徒11人が死亡、20人近くが重軽傷を負った。現場の山荘ちかくからの生中継にも。木曾谷へは土石流災害で入った。その頃冬の中央アルプスでは救助の自衛隊ヘリが墜落。ついでセスナ機墜落。そんなこともあった。

もくもくと噴き上がる御嶽山の噴煙。雲仙普賢岳の火砕流噴火が重なった。このときは現地長崎の責任者。規模の火砕流の数日後大きな火砕流が発生。私どもの取材者2人を含め43人が犠牲になる大惨事だった。

9月下旬。早くも金木犀が香る。観察では例年10月10日ころが満開の時期。いつもより半月早い。気候変動、天変地異。常在戦場の備えをと喚起している。消防救急車暴行事件。隠ぺい工作。産婦人科クリニック差別扱い等。信頼と安心にかげりが出ていないか。総力を結集できる土壌づくりが急がれる。(いとう)



# 第1排水区（吉川駅北口）治水対策 『木売り落し』に貯留施設整備！

かねてより懸案であった吉川駅北口周辺地区の治水対策として、さくら通り沿いの『木売り落し』に貯留施設を設置することが決まった。

『木売り落し(悪水路)』を2重構造にして、雨水を一時的に貯留する施設を建設する。貯留した雨水は中川へ放流される。これにより、台風や豪雨等で発生していた駅前の浸水被害がなくなることに。

総合治水対策の主なものは、①最終的な排水先である河川の改修。一級河川の大場川、第二大場川そして中川、江戸川の改修(県や国に要望)。②排水路の整備。③調整池・調節池の整備等。

低地である吉川で最も効果があるのは、調整池などの貯留施設であることから、有効な対策と期待できます。

## 35,000 m<sup>3</sup>の雨水を貯留

『木売り落し』を雨水の貯留施設として活用する事業ですが、JA販売所(下流部)～前新田(上流部)の間約2kmに設置。貯留施設の深さや幅によって設置距離は変わるが、JA販売所から桜橋までの区間約750メートル(25,000m<sup>3</sup>)を先行する予定。

下水道事業認可の変更(3年から5年確率)手続きを経て、変更後詳細設計、補助金事業の申請に入り採択後、桜橋までは5年程度で完成させる計画。工事着工まで数年を要する。

## 国・県の補助金を活用

多額な費用を要することから、社会資本整備交付金の下水道浸水被害軽減総合事業等の補助金を活用して行う。補助率は50パーセント。対象の事業となる要件を高めるために、ゲリラ豪雨対策の100mm/h安心プランの地区指定を受けることも合わせて検討。

## 水辺再生事業と連動した取り組みを！

貯留施設建設にあたってはぜひ、『水辺再生』を一緒に行ってほしい。

貯留施設の上を流れる「小川」の復活。子どもたちが水に親しめる「せせらぎ」を再現。水草の間に小魚やナマズが生息し、水辺には花菖蒲や菜の花が咲いている親水公園に。

『木売り落し』が、桜の時期だけでなく1年中楽しめる場所になるはず。それは何年もの間、市民が望んでいたことです。

遠い昔、東京湾の入り江であった吉川。低い土地であり、水との関わりが深い。課題はありますが、この機会に知恵と工夫で、その水を活用したまちづくりを期待したい。

## 編集後記

9月15日敬老の日、吉川平成園で長寿を祝う会が催された。百歳を迎えられた方に、百歳の祝状、記念品(総理より)の伝達、白寿・米寿の敬老祝い金が市長より手渡された。吉川で今年、百歳を迎えたのは11名で百歳以上は全員で19名。米寿を迎えたのは138名と伺った。

28日には、私の住むマンションで高齢者昼食会が開かれ、妻と二人して出席した。310世帯中、65歳以上は165人、出席したのは65名だった。皆ついでの間まで、子育てと仕事に追われていたに、あつという間に夫婦二人や、独居世帯に。団塊の世代も多い。来年は、集居室に入りきれないかも。

それにしても、出席されている方々は皆若い。元氣いっぱい。数年前にできた談話クラブに参加しているメンバーも多く、毎月、お茶を飲んだり、ハイキングや、名所を訪ねたりしている。また、麻雀や絵画等、趣味の会や健康維持のための運動教室も活発に活動している。もちろん、なまらん体操もやっている。気軽にいったり、行かなかつたり出来るのが嬉しい。

一方、どこにも出てこれない方もいる。人との関わりが面倒なのか、嫌なのか、それとも何か健康に不安を抱えているのか。心配です。

歳とともに体力や気力が衰えるのは仕方がない。病氣と付き合い、介護の支援を受けることもある。

しかし、出来れば住み慣れたところで、支え合い、最後まで自分らしく暮らしたい。と多くの人が望んでいる。

それが本当に出来るかどうかは、地域